

## 授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	いすみ市立大原小学校
-----	----------	-----	------------

### 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○本校の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、記述式の正答率が低いことが明らかになっている。特に、根拠となる理由を言葉や数を使って説明する力に課題がある。日常の学習からも、自分の思いや考えを表出することに抵抗があったり、適切な言葉が見つからなかったりする児童が多く見受けられる。そこで、昨年までは国語科を中心に、自分の考えをもち、進んで表現できる児童の育成に取り組んだ。児童の書くことへの抵抗が減少するなど成果が見られた一方、書くための技能を高めさせることに課題が残った。

### 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ふきだしを活用して自分の思いや気付きを表現しやすくすることで、児童は自分の考えを進んで表現するであろう。
- ふきだしを基に、視点を与えて自分の学習を振り返らせたり、児童の振り返りを次時の導入で取り上げ、意図的に学習のつながりをもたせたりすることで、学び続ける児童を育成することができるであろう。

### 3. 具体的な実践

○本研究では、ふきだしを自分の考えを表出させるための手立てとしている。さらに、自分の学習を振り返るための手立てにもなると考えている。学習のまとめをした後、本時の自分の学習を振り返る時間を設定する。年度初めは、学校全体として明確な視点を示していないため、児童が書いた振り返りの学習感想の内容も学級によって偏りがみられるなど、課題も多かった。そこで、学校全体で統一の視点を合言葉にしようと、全体研修で検討する時間を設けた。教員一人一人がどのような振り返りをさせたいか考え、児童の立場になって分かりやすい言葉になるようにした。そこで、決まった大原小学校独自の振り返りの合言葉が「わっしょい」である。そして、児童の発達段階を考慮し、低・中・高学年ブロックで、「わっしょい」を基にそれぞれの視点について、児童に書かせたい振り返りの内容の具体化を図った。全校統一で明確な視点をもって継続的に取り組むことで、児童の記述内容も変容してくると考える。

### 4. 成果

- ふきだしを活用することで、児童は自分の思いや気付きを表出しやすくなり、ノートに進んで自分の考えを書くことができるようになった。低学年でも顔文字などの記号やイラストを使うことで、自分の思いを表現させることができた。
- 見通しでふきだしに自分の考えを書かせることで、振り返る際に、自分の思考の変容に気付きやすくなることが分かった。
- 「わっしょい」を合言葉にすることで、児童は視点に沿って振り返りを書くことができるようになってきた。また、自分が書いたふきだしを基に、振り返りの感想が書けるようになり、内容も高まってきている。

#### ◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 竹下 輝）

○全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、自校の研究テーマを設定し、全職員で授業改善に意欲的に取り組んだ。検証授業では、「ふきだし」を活用し、自分の考えを書く活動を通して、既習事項と関連付けて考えたり、学んだことを生かそうとしたりする児童の姿が見られた。